

No 17

内蒙古自治区において夏季に発見された ソデグロヅルの個体群

李曉民¹・孫志勇¹・伊国良²・程万軍²・周景英²・呉宝喜²

1 東北林業大学野性動物資源学院

2 内蒙古自治区図牧吉国家級自然保護区

訳 福井和二

摘要；ソデグロヅル (*Grus leucogeranus*) は体長 35cm, 立った時の高さ 140cm, 初列風切羽を除いて白色の羽毛に包まれている。世界で野性のソデグロヅルは 4000 羽に充たず, IUCN のレッドデータブックにおいて世界の絶滅危惧種に挙げられ, 我が国においても国家一級重点保護鳥類に指定されている。ソデグロヅルは我が国で冬を過ごす渡り鳥である。2002~2004 年夏季に内蒙古自治区図牧吉国家級自然保護区において毎年記録されており, その数は 8 羽, 7 羽, 16 羽である。これは我が国で初めて夏季に記録されたソデグロヅルの個体群である。筆者らはソデグロヅルの夏季における行動および食性について基礎的な観察を行なった。

ソデグロヅル (*Grus leucogeranus*) は体長 135cm, 立った時の高さ 140cm, 初列風切を除く全てが白色の羽毛に包まれている^{11,2)}。ソデグロヅルは我が国の記録では冬鳥となっており, 渡りの時期には東北, 河北, 山東, 河南各省で見られ^{3,4)}, 越冬は安徽, 湖南, 江西各省で行われる⁵⁻⁸⁾。国外ではロシア, 蒙古, イラン, インドなどで見られる^{11,9,10)}。世界全体でソデグロヅルの数は 4000 羽に充たず, IUCN レッドデータブックの絶滅危惧種, CITES ワシントン条約に挙げられており, 我が国では国家一級重点保護鳥類に指定されている。文献の記載および現在の資料により, ソデグロヅルは内蒙古東部では旅鳥と明記されている^{11,11)}。2002 年から毎年内蒙古の図牧吉保護区において夏を過ごす個体があり, その数が増える傾向にある。しかし, 何回かの調査でも巣および雛を見ることはできなかった。

図牧吉国家級自然保護区は内蒙古自治区の扎賚特旗域内にある。地理的位置は 122° 44' 13" ~123° 10' 24" E, 46° 04' 12" ~46° 25' 47" N で, 総面積 94830hm², その内の湿地面積は 27420hm², 保護区の総面積は 28.6% を占める。本区は耕地が少なく, 交通不便, したがって, 原始的自然のままの状態である。優れた地理的な環境, 豊富な食物資源など, 鳥類, ことに水鳥に対して良好な生息環境を提供している。毎年の春秋に, 水鳥の大群が滞在している。我が国で記録されている 9 種のツル類のうち 6 種が本区で毎年見られる。本区ではタンチョウ (*G. japonensis*), マナヅル (*G. vipio*) とアネハヅル (*Anthropoides virgo*) などが繁殖している。ソデグロヅル, ナベヅル (*G. monacha*), クロヅル (*G. grus*) は本区では旅鳥である。

ソデグロヅルは毎年春秋の渡りの季節に 40 日ほど滞在する。春季の最大個体数は 600 羽以上で, 2002 年本区で初めて夏季のソデグロヅルの個体群を記録した。2002 年の夏季 (6~8 月) 観察のたびに毎回 8 羽のソデグロヅルが保護区内の図牧吉沼で行動していた。2003 年の夏 7 羽が, 2004 年夏には 14 羽になった (表 1)。筆者らは 2003 年 8 月と 2004 年 8 月本区に生息するソデグロヅルの基礎的な観察を行なった。ソデグロヅルの主な生息場所は図牧吉自然保護区の図牧吉ダムで, 面積 5000hm², 平均水深 1 m, 平野の中に作られたダムである。ダムの周辺部 3

表1 2002~2004 函牧吉におけるソデグロツルの個体数

2002		2003		2004	
月・日	羽	月・日	羽	月・日	羽
3.30	310	3.28	8	3.29	7
4.12	360	4. 8	36	4. 3	39
4.29	400	4.16	297	4.19	94
5. 6	600	4.28	527	4.25	186
5. 7	20	5.10	590	5.10	19
5.20	6	5.15	240	5.20	13
5.27	8	5.28	8	6. 1	22
6. 8	8	6. 5	8	6.26	12
6.18	8	6.15	8	7. 1	4
6.25	8	6.25	7	7.18	4
7.10	8	7.15	7	7.29	8
7.20	8	7.25	7	8.10	16
7.30	8	8. 3	7	8.20	16
8.30	8	8.19	7	9. 1	6
8.17	24	8.23	7	9.10	37
8.30	156	9. 5	7	9.16	50
9.12	27	10. 3	7	9.21	70
9.15	38	10. 7	33	10. 1	136
9.29	32	10.11	65	10. 6	100
10. 5	14	10.15	15	10.12	350
		10.29	15	10.24	157

~5 km 幅で水深 20~30cm の浅い水域があり、そこにはバイカモ (*Ranunculs flaccidus*), 水葵 婆婆納 (*Veronica anagallis*), エビモ (*Potamogeton crispus*) 等水生植物や水生昆虫が豊富で、ソデグロツルの良好な食物資源を提供している。春から夏季のソデグロツルは毎日、水深の浅い水辺で採食行動をしている。本区はソデグロツルにとって天敵となるものが極めて少なく、人の干渉も少ない。そのために、夜間も採食地付近のヨシ原でねぐらをとっている。まったく警戒すべきものがないのか、同じ場所で多くの時間行動している。観察によると、ソデグロツルの春季の主な食物は水生植物の柔らかい芽や茎等である。夏季は主に水生昆虫と巻貝を食べている。秋には彼らはよく陸地を歩いてイナゴ、バッタ、トンボなどの昆虫を捕食している。意外に軽快に昆虫を追いかけ、効率よく捕食している。これらの採食時には、10m ほどの間隔で、一列に横並びに歩き、長距離の場合は 100m ほど歩くことがある。また、2, 3 の小群で行動することもあるが、長くは続かず、再び 1 群になって行動する。ソデグロツルは人に対して警戒心が強く、1000m ほどの距離に人がいると、明らかに採食行動が少なくなり、頭を上げる警戒行動が多くなり、人がさらに近づくと、彼らは人と反対方向へ移動し、常に人との間隔を維持するように行動する。もし、人が 300m ほどに近づくと彼らは飛び立って採食場所を離れる。しかし、遠くまでは飛ばず、2~3 km 離れた場所に下りて、何ごとともなかったように採食を続ける。

筆者らは秋のソデグロツルの終日観察を行なった。ソデグロツルは毎日 5 時 30 分、太陽が昇

り始めるとすぐ採食を始めるが、個体間の距離は近く、行動は緩慢で、翼を伸ばしたり、頸を伸ばし、左右を見たりしている。6時30分頃採食行動は頂点に達し、捕食効率も高くなり、個体間距離も広がっていく。8時30分には採食行動は減少し、9時30分頃にはほとんど採食行動は止まり、周辺を見回したり、羽繕いをしたり、休息状態になる。11時頃、再び採食行動が始まるが、行動は緩慢である。12時頃休憩時間に入り、15時採食を再開し、18時過ぎ、日没後、暗くなっても採食場所を離れず、ゆっくりと歩きまわっているのが見られる。翌朝、同じ採食場所で観察された。翌年の夏もソデグロヅルを観察したが、幼鳥または雛、あるいは巣や卵を見ることはなかった。本区で行動しているソデグロヅルは成鳥あるいは亜成鳥である。

2004年6月、9月、10月の3回、函牧吉のソデグロヅルを観察した。2004年6月12日、大明沼の前沼で15羽のソデグロヅルを発見、8月まで滞在していたが、早魃のため、8月末にこの沼が乾枯したので、ソデグロヅルは8月20日、函牧吉ダムへ移った。函牧吉ダムはヨシが多く繁茂しており、毎回の観察で4～9羽しか見ることができなかった。9月1日、国際ツル財団のJiim Harris博士が函牧吉を訪れ函牧吉ダムで6羽のソデグロヅルを見ることができた。9月下旬、ソデグロヅルは逐次増加し、10月12日350羽を記録した。しかし、幼鳥が少なく、僅か7羽しか記録されなかった。その後10月末まで滞在が続き、結氷後になって本区を離れた。

ソデグロヅルは独立した個体群を形成しているが、採食時など、他の鳥類との混群でも多く、ソデグロヅルと他の鳥類との種間距離も近い。毎回の観察中、彼らと混群をつくって採食している種はクロヅル、マナヅル、コウノトリ (*Ciconia boyciana*)、ナベコウ (*G. nigra*)、ダイサギ (*Egretta alba*)、アオサギ (*Ardea cinerea*) などであった。

調査によりソデグロヅルとクロヅルが本区において夏鳥であることを実証することができた。

訳注

* 水菖 婆婆納 (*Veronica anagallis*) ; ゴマノハグサ科, クガイソウ属, 長江以北の淡水沼地に広く分布する。